

まちぴあ

身近なつながりに出会おう

夏号



TAKE FREE
無料

特集

「居場所」でつながる人たち

ほっとねっと

2012うつのみや花火大会

まちぴあ登録団体紹介

デックタイグループ/
ゆる~い将棋教室鶴仙人

まちづくり言いたい放題

歩いて暮らせるまち環境を



居場所でつながる人たち



月に2回、夕方の1～2時間、近所の子どもたちが集まって自由な時間を過ごします。

子どもが大人に見守られながら、いつもと違う成長をしていく場所。進学塾とはちょっと違う子どもの居場所「愛び舎」は、宇都宮市内の住宅地の片隅にあります。

ここでは、先に宿題を終わらせてから、パステルの粉を使ったお絵かきを楽しむのが定番。時には、子どもが持ってきたトランプで遊ぶこともあります。子どもたちは、初めは緊張していたそうですが、最近はしっかり者やマイペースなどの個性が出てきた様子。ゆったりした温かい時間が流れています。

居心地の良い場所

きっかけと出会い

楽しい気持ちも、誰にも言えなかつた悩みも、わけあうことのできる仲間が集う場所。

そんな「居場所」をつくる活動が、実は宇都宮にもたくさんあるのです。

いつもの場所
ものたりなさ



手伝う人 場所を提供する人
場所を管理する人 他の利用者

居場所づくりについて

居場所活動とは、人々が安心して過ごせる空間を定期的に設置・運営する活動です。内容や形式は多種多様。利用者は、好きな作業やおしゃべりなどをしながら、自由に時間を過ごすことができます。悩みの共有や息抜きの場として利用されています。

今回はその一例である、子どもを対象とした居場所「愛び舎」を紹介いたします。

一方、運営を行う村上さんたちで、人の為に自分たちの部屋を使ってもらいたい」と提案を相談先に伝え、利用者の紹介を待ちました。

それぞれの「居場所」への思い

私たちも子どもたちも、ゆったりと過ごせる心の充電基地を心がけています。宿題を助け合ったり、お絵かきなどの作品から「自分でよかつた」「お友だちも素敵」を楽しんでいます。一緒に活動するお子さん(幼児も可)や、支えてくれる仲間も募集中です!

子どもの心の充電基地に



村上さん

子どもは楽しく親は安心

イベントのアート体験で知つて、やりたくて通い始めました。絵をほめてもらつて自信がついたり、興味が広がつたりしています。ここに来るのが楽しみです。家族以外の大人と遊べる場所は、親としてもありがとうございます。

地域の人たちに使ってほしい

生きづらさなどの問題が多い世の中で、人の心を大切にするために何かしたいと考えました。私たちの部屋を使って、安心して自分しさを見つける活動などして頂ければ幸いです。他に部屋をご利用されたい方がいらっしゃいます。

場所のオーナー



松田さんご夫妻

誰もが楽しめる場を



中山さん

村上さんは子をもつ親同士、何か地域に貢献できることをやりたいと思っていました。こういう居場所を始めたのは関わる人全員が楽しめそudsだからです。うちはまだ子どもが小さいので、少し上の子と接するのは私も勉強になります。

他にある、こんな居場所活動

- ママと赤ちゃんたちが集まる場所
- 同じ病気の人たちが話をする場所
- 昔ながらの建物を利用した場所
- 地域の誰もが自由に入れる場所

興味のある方は、宇都宮市まちづくりセンターまで(巻末参照)



来ない日があつても、フラリと来てもOK。
それぞれのペースでお絵かきなどを楽しみます。

がグループを結成したのは平成22年冬のこと。様々な学びの場で会った仲間と、それぞれの特技を使つて何か地域に貢献したいと動き始めました。その中で、宇都宮市子ども未来課から勧められたのが、子どもの居場所づくり。「子どもたちとの予期せぬ化学反応が見られそうで面白い」と企画が始まりました。

そして平成23年夏、相談先を介し、村上さんと松田さんの思いがつながつたのです。同年冬に開設に至り、参加者も口コミで集まりました。

そこで平成23年夏、相談先を介し、村上さんと松田さんの思いがつながつたのです。同年冬に開設に至り、参加者も口コミで集まりました。

市子ども未来課から勧められたのが、子どもの居場所づくり。「子どもたちとの予期せぬ化学反応が見られそうで面白い」と企画が始まりました。

がグループを結成したのは平成22年冬のこと。様々な学びの場で会つた仲間と、それぞれの特技を使つて何か地域に貢献したいと動き始めました。その中で、宇都宮市子ども未来課から勧められたのが、子どもの居場所づくり。「子どもたちとの予期せぬ化学反応が見られそうで面白い」と企画が始まりました。

「居場所」では、特別な人が活躍する必要はありません。自分にできる小さなことを、一人一人が持ち寄れば、居場所での困りごとは解決する場合も多いのですから。様々な人たちの思いが集まって出来ている「愛び舎」でも、みんなが無理せず、自然体でいられる空間が作られています。

人々がリラックスできる空間を提供する居場所活動は、現在、多方面から注目を集めています。

取材協力
子どもの居場所「愛び舎」
☎ 090-8022-7716
部屋の利用に関する問合せ
宇都宮市まちづくりセンター
☎ 028-661-2778

自然体が一番!

ほつとやつと

No.
2

2012うつのみや花火大会

「花火大会開催の危機」

観衆が固唾をのんで夜空を見守っています。虫の声だけが響き渡り、あたかも時間が止まってしまったかのよう。

「どおくん」「ひゅるるるるるる〜」「ぱちぱちぱちぱちい」



鮮やかに咲く大輪の花火

がなくなつた。そんなことありえない。宇都宮生まれ、宇都宮育ちの桶田さんは、寂しい夏の日を思い返します。

「市民の思いが復活へと

宇都宮の夜空に大輪の花が咲きました。今では県内で35万人の動員を誇る「うつのみや花火大会」。地元経済の冷え込みで一度は途絶えてしましました。「子どもの頃から親しんできた夏の花火大会。それ

全国でも注目されるまでに成長したうつのみや花火大会ですが、支えるのは「大会を復活させよう」と立ち上がった市民がボランティアで運営する実行委員会です。メンバーのほとんどは、サラリーマンや自営業など自分の仕事を持つ方々。各自の得意分野を活かし、仕事の合間に縫つて、資金集めや広報などの大会運営活動をしているというから驚きます。

当日スタッフは毎年募集されており、多くの市民が大会の運営に携わっています。会場設営・大会中の巡回・後日の清掃活動など裏方としての仕事が多く、体力的に大変なこともあります。しかし「花火を

打ち上げる」という同じ目標を持ち、仲間と汗を流すことは、他では決して味わうことのできない感動やこれから自信につながるのだそうです。そして、オープニングの2尺玉が打ちあがったとき、鳥肌が立ち、大粒の涙がスタッフの頬を伝わるのです。

「100年先まで…」

市民や企業に支えられ、うつのみや花火大会は今年で6年目を迎えます。私たちは震災など多くの困難を乗り切り、一番大切なものは何かを日々感じるようにになります。「大きなことではなく、目の前にいる大切な家族や友達、自分たちを支えてくれる仲間に、本当の強さ優しさであろう『真心』を届けたい。」そう語ってくださった桶田さんは、郷土を愛する仲間とともに守りぬいていく決意が見られます。この花火大会を通して、人と人、企業と地域、新しい形でのつながりが生まれています。100年、いやそれ以上受け継がれる「うつのみや花火大会」の土台が確実に築かれています。



ほんものの思い「真心」を届けたいと桶田会長

取材後記

なんとなく夏の風物詩として観てきた「うつのみや花火大会」。その裏側には郷土愛をもった市民の結集があったのです。今年は8月11日(土)に開催予定です。ボランティアとして参加するのもひとあじ違った夏の思い出です。(桂)

うつのみや花火大会実行委員会

宇都宮市旭1丁目1-5 宇都宮市役所 観光交流課内 ☎028-632-2032



郷土を愛するボランティアの仲間たち

ちょっと気になるコレクション

“自立”を応援する お豆富



みゆきのとうふ

よせ豆富・青ばたよせ豆富
250円(180g)
入手方法：
社会福祉法人みゆきの杜
『彩食工房みゆき』
宇都宮市泉ヶ丘3-9-5
TEL/FAX.
028-661-3193



1丁1丁を手作業で大切
につくられるお豆富は、1日
で全7種類300丁。大豆本
来の甘みと濃厚さのある「み
ゆきのとうふ」は、仙台から
届く国産極大粒大豆『ミヤギ
シロメ』と天然にがりの素材
の良さ、そして黙々と緻密な
作業をする作り手さんによつ
て製造されています。

1丁1丁を手作業で大切
につくられるお豆富は、1日
で全7種類300丁。大豆本
来の甘みと濃厚さのある「み
ゆきのとうふ」は、仙台から
届く国産極大粒大豆『ミヤギ
シロメ』と天然にがりの素材
の良さ、そして黙々と緻密な
作業をする作り手さんによつ
て製造されています。

業場では、8人の作り手さ
や凝固、パッキング、冷却と
多様な工程に汗を流してい
ます。“障がいがあつても、
働くことができるという喜
びを感じてほしい”と平成
20年に障がい者とジョブト
レーナー、アドバイザーが力
を合わせて始まりました。

障がい者の作り手の社会
的自立の応援にもつながる
「みゆきのとうふ」は、泉ヶ
丘の販売店の他、リアカー
でのひき売りで購入でき
ます。

とつておまか
開心空間
やさしさとつながる

います。「地元で通っていた
お店を参考にした」という内
装は、その名に違わず端整な
木造作り。異国の調度品も
置かれ、どこか日本とは別の
場所にいるかのよう。

「お店から帰る時には、温
かい気持ちになってほし
い」と日々のお客さんへの気持
ちを語る倉本さんのもとには、
職種も様々な人々

さんも一度、つながってみ
ませんか?



柔らかくて和やか。
それが、2tree
cafeと店主の倉本
祐樹さんの印象です。
店名になっている「2
本の木」は、「人と人」「人
ともの」のつながりや
出会いをイメージして

あります。柔らかくて和やか。
それが、2tree
cafeと店主の倉本
祐樹さんの印象です。
店名になっている「2
本の木」は、「人と人」「人
ともの」のつながりや
出会いをイメージして
柔らかくて和やか。
それが、2tree
cafeと店主の倉本
祐樹さんの印象です。
店名になっている「2
本の木」は、「人と人」「人
ともの」のつながりや
出会いをイメージして



2tree cafe

宇都宮市西原3-3-14(平成通り沿い)
TEL.050-1026-5173
<http://2treecafe.jimdo.com/>
営業:7:30~10:00/11:00~17:00
(17:00以降は予約のみ)
定休:日曜日 第2・第4月曜日

つづみやみの話題人
ワディビト

「縁の下の力持ち」～スポーツで育む 元気な人と元気な街～

「活力のある街をつくる
には、活力のある人を育て
たい」。そう考え、地域の
様々なスポーツイベントに
関わっているのが、宇都宮
スポーツの街づくり応援団

団代表の鈴木勲さん。以前
は、ご自身がトライアスロン
の選手としてイベントに参
加していました。「自分た
ちがスポーツをさせて頂け
ているのは、陰で大会やイベ
ントを支えているボランティ
アの皆さんのおかげ」と実感
し、平成22年に宇都宮のス
ポーツイベントを支える「応
援団」を作りました。

毎月1回の「みや環ラン」
をはじめとした主催イベン
トを行う一方、今年4月には、
ボランティアと市民の参加に
よる手作りの企画「ミヤラ
ン」を応援しました。これか
らも“みんなが楽しめる達
成感・感動のある街”を目
指し、地域と協力して活動し
ていきます。

鈴木 勲さん

役職：宇都宮市スポーツの
街づくり応援団代表
趣味：トライアスロン
ダンス 哲学



わたしたち、こんな活動しています。



宇都宮市まちづくりセンター

まちぴあの登録団体紹介



将棋で世代を超えた居場所づくり

将棋と言ふと、おじさんが難しい顔をして指しているという印象があります。団体名にある「ゆるい」という言葉の中に、初心者・子供・女性・

外国人の方々にも気軽に参加して欲しいという願いがこめられています。

性別・年齢・国籍、無制限！そんな広くて、ゆるい気楽な居場所。当

初は何もないところからのスタートでした。ところが、将棋盤や駒の寄付は思いのほかスマーズに集まり、その輪が広がっています。

す普及部長の山本さん。将棋を指している時の顔は真剣ですが、参加者はまさに様々。一緒にこの場を楽しんでいます。



「どうぶつしょうぎ」は親子に大人気

【団体名】 ゆる~い将棋教室 鶴仙人

【定期教室】 毎月第2・第4土曜日 10:00～17:00 (時間内出入り自由)
宇都宮まちづくりセンター 研修室

【連絡先】 TEL: 028-666-6901 (担当: 小林)



日本では聞きなれない単語、「デック」とはタイ語で「子ども」を意味します。在日タイ人の子どものタイ語教室が、デックタイグループの活動開始のきっかけです。子どもたちが将来タイに帰国した際に、言語で困らないように、との思いから始まりました。

現在は、タイ語教室の

他に、在日タイ人への日本語教室を開催しています。タイ人と日本人が一緒に楽しめるタイ踊り教室や、県内の国際交流イベントへの参加を通して、日本とタイの架け橋となる活動も行っています。

また、タイ移動領事館や法律相談など、在日タイ人の生活支援を数多くこなしています。日本とタ

ナポンさんは「心広く誰でも受け入れていきた。来日時、自分も苦労したからこそ同じ仲間を支援したい」と始めたデックタイグループは急成長中。活動内容をより

魅力です。

会員はタイ人だけではなく、日本人も多く参加しています。タイ文化に興味があり、一緒にイベントなどに参加できる人を募集中です。代表のラタナポンさんは「心広く誰でも受け入れていきた。来日時、自分も苦労したからこそ同じ仲間を支援したい」と始めたデックタイグループは急成長中。活動内容をより

魅力です。

イに関する幅広い活動が魅力です。

魅力です。

魅力です。



タイの民族衣装でファッションショー

【団体名】 デックタイグループ

【タイ語・日本語教室】 毎週土曜日・日曜日 13:00～15:00
宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ 研修室

【連絡先】 TEL: 028-678-8996 E-mail: dekthaigroup@hotmail.com
<http://www.bloggang.com/mainblog.php?id=dekthaigroup>



陣内先生の

言いたい放題

まちづくり

2

歩いて暮らせる まち環境を

「歩いて暮らせるまちづくり」がこれか

らは重要だし必要だと、機会があるごとに口を酸っぱくして言つてきました。とはい、自動車がある生活を頭ごなしに否定している訳ではありません。モータリゼーションが過度に進んでしまった我が国では、大都市以外では車なしの生活が成り立たないのが現実ですから。

でも、これからは超高齢社会となり日常的な買い物に支障を来たす人が多くなるでしょうし（生鮮食料品や日用品を車で買いに行くというライフスタイルを今まで続けることはできません）、環境へ

の影響を考慮すれば、「歩いて暮らせる」ということにもう少し重きを置くまちづくりが実践されてもよいのではないでしょう。これは、日々通勤などで宇都宮市内を歩き回っている者としての痛切な願いでもあります。

宇都宮へ赴任して12年になります。赴任当初、車の運転のマナーの悪さはカルチャーショックでした。信号が黄色になると途端に加速し、歩行者側の信号が青になつているのに、そこをぎりぎりで突っ切

るというアクロバティックな運転が日常茶飯事になつているには唖然。数年前に宇都宮市出身の学生が発した一言が今でも忘れられません。（筆者）「なんでこんなに運転マナー悪いのかね～」（学生）「お母さんを助手席に乗せて運転していて、"加速しなきゃだめじやない"と黄色信号で怒られたことがありましたよ。」なるほど、この運転マナーのひどさは、脈々と代々引き継がれてきたものなのか、と合点がいったわけです。

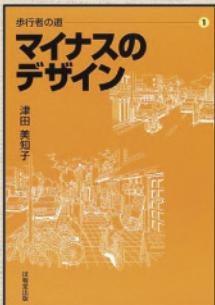
自転車のマナーも惨憺たるものです（宇

都宮市はどうやら、自転車の街を目指しているようなのですが……）。歩道での二列並走や無灯火は当たり前。スマートフォンが流行りだしてからは、手元のスマートフォンを凝視しつつ走行し、前を見ていないというような方が急激に増えています。私自身、歩いていてそのような自転車とあやうく正面衝突しそうになつたことがあります。まさに歩行者にとつては

「STRESSFUL宇都宮（ストレス多き宇都宮）」。

車を持たなくともよい、使わなくともよい生活を実現するために、世界中の都市で様々な取組がなされています。ドイツの環境先進都市フライブルグ市のフォーボー団地は、そのような取組の典型例の一つと言えます。宇都宮でも、思い切った政策転換を行わない限りは、歩行者が身の危険を感じずに、安心してのんびりと歩けるようになる日はいつまでもこないのでないかと感じています。

書籍紹介
陣内先生が推奨する
この一冊！



津田 美知子 著
「歩行者の道1 マイナスのデザイン」
技報堂出版 2002年発行



陣内 雄次
じんのうち ゆうじ
プロフィール

2007年、宇都宮大学教育学部教授。NPO法人宇都宮まちづくり市民工房の理事長としてまちづくりの実践にも関わるとともに、コミュニティカフェ「ソノツギ」を運営している。著書に「コミュニティ・カフェと市民育ち」など。

このコーナーでは市民のみなさん、市民活動関係者、行政関係者などからのご意見、ご感想をお待ちしています。紙面上での意見交換へと発展することを期待します。ご意見・ご感想はまちびあ広報部へ。

まち
書
庫
ぴ
か
ら

PICK UP!

「よい公共施設」とは？市民参画でつくる、
もうひとつの公共の姿がここにある

テーマは「公共施設」。この本が制作されたきっかけは、とある市立保育所で起きた熱中症による子どもの死亡事故でした。今や「新しい公共」や市民参画・協働が語られる中で、まちに住む人びとにとつて、公共の場とはどうあるべきかを考えます。

保育所で保護者がいっしょになって運動会をひらく、障がい児施設を年間130人ものボランティアが支える、子ども図書館は会費と寄付で支えられる、といった事例がこの本では取り上げられています。

それぞれの場所に共通するのは、市民1人ひとりの願いに根ざしていること、利用する人びとすべてが参加して意思決定をしていること、もともと自分持っていたものを持ち寄ることでした。

紹介されている事例は先進的なもので、加えて本書は市民研究調査の報告書ということもあり、初めは読みづらさを感じるかもしれません。ですが、読み進めるうちに、市民が参加してつくることに魅力を感じ、私もやってみたいと思うようになるでしょう。



「私のだいじな場所
～公共施設の市民運営を考える～」
市民活動情報センター・ハンズオン埼玉 発行
協働・参加のまちづくり市民研究会 編集
2005年発行

まちぴあからのお知らせ

助成金情報

平成24年度 宇都宮市市民活動助成金交付団体が決定しました

宇都宮市では、ボランティア団体やNPO団体の自立を促進し、市民活動の活性化を図る「宇都宮市市民活動助成基金」を設置し、財政的な助成による応援をしています。

今年度の市民活動助成金交付団体を選定する審査会

が、5月11・12日に市役所で開催されました。この審査会では、応募した24団体による申請内容の発表が行われ、スタート支援コース3団体、ステップアップ支援コース10団体への助成が決定しました。

スタート支援

立ち上げて間もない団体などに、事業の開始など団体の自立化を支援するコース

団体名	団体の活動目的(規約等)	事業内容
1 点訳ボランティアサークル 「スイートピー」	点訳ボランティア、視覚障がいの方々に寄り添う活動	墨字書類の点字版作成や代筆、代読・点字書類の墨字文字版作成
2 宮のにぎわい 山車復活プロジェクト	山車の復活を通してにぎわいを取り戻し、まちの活性化に貢献	復活の資源(2000万円以上)のための募金活動・ポスター等の作成
3 スマ本俱楽部	高齢者や障がいのある方などがスマートフォン等の使い方を学ぶ場の提供	毎週木曜日に勉強会を開催、多様なスキルアップを目指す

ステップアップ支援

結成後2年以上経過した団体に、事業の拡大など活動の活発化を支援するコース

団体名	団体の活動目的(規約等)	事業内容
1 特定非営利活動法人 パパママおうえん隊	安心して子育て・親育ちの出来る環境作り	市主催の講座や健診会場における出張託児の実施
2 うつのみや シティガイド協会	ボランティアとして市内外からの訪問者に宇都宮の素晴らしさを伝える	シルバーエリアを重点に、宇都宮の文化、歴史などを対話形式で提供
3 紙芝居ねんりん29の会	「民話調による紙芝居劇」を通して、地域社会に感謝・貢献する	福祉施設、学校、幼稚園、病院等へのボランティア活動等
4 さつきふれあい堆肥の会	生ごみの堆肥化による焼却ゴミの減量化、自然循環のエコ活動	実績のある牛畜産農家の良質牛ふん堆肥を活用した生ごみの堆肥化
5 宇都宮スポーツの街づくり応援団	スポーツの振興、人々の健康や地域活性化に寄与	スポーツを支えるボランティアが活動やすい組織作り
6 きょうだい会SHAMS	発達障がい者を家族に持つ健常の兄弟姉妹が、ともに自分らしく生きられる環境づくり	話し合い活動・余暇活動・理解啓発活動
7 デックタイグループ	在日タイ人と日本人の理解と協力の促進	タイ語学習教室の開催、タイ人を対象とした日本語教室の開催
8 雀宮ボランティア ネットワーク	地域に貢献したい思いをネットワーク化、新しい地域づくり	絆づくりの為の映画上映会 清掃活動に必要な清掃具の用意
9 輝楽塾	「人間力アップ」をキーワードに地域の活性化に貢献する	研修会、講習会の開催 (自己啓発、社会参加促進講座等)
10 WACとちぎ	健康マージャン(飲まない・賭けない・吸わない)を通じた健康づくりや生きがいづくり	健康マージャンの指導者育成や普及啓発活動

まちぴあ新規登録団体 (2012年4月30日現在 登録団体数192団体) ※今号より、登録団体数は新センターへの登録が完了した団体実数といたします。

児童・母子福祉

circle of smile
夏の子OB・OG会
作新学院大学女子短期大学部 久野担任会

障がい者福祉

企業組合労協センター事業団 宇都宮地域福祉事業所

その他の社会福祉

きょうされん栃木支部
民話語りべ「絆の会」

健康づくり

栃木県健康管理士会
特非) 宇都宮市ウォーキング協会

地域活性・農村振興

ワールドソウルコーラス宇都宮
石藏さんるの会
さつきまちづくり企画委員会

教育・生涯学習指導

home
栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会

自然環境保護

花いちもんめ会
水環境条例制定ネットワーク
せっけんネットワーク栃木
緑化ボランティア「八喜会」

スポーツの振興

宇都宮スポーツの街づくり応援団

青少年育成

栃木県立宇都宮工業高等学校生徒会
フューチャーズプレイスプロジェクト
ボランティアグループまなびば
栃木子ども本連絡会

芸術・文化振興

からだの学校
マジック夢クラブ
共楽マジッククラブ
生け花 Pour ma cherie
学びの映像舎
河内図書館ボランティアかりん

国際協力

まちなか・せかいネット

国際交流

宇都宮市国際交流協会 通訳グループ
宇都宮東ローターアクトクラブ
キッズねっこ

市民活動支援

特非) ま・わ・た

その他

特非) 栃木エコロジー設計協会
特非) 栃木DARC ピースフル・プレイス
県営平松本町自治会



宇都宮市まちづくりセンター

まちぴあ

(指定管理者：特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房)

〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5丁目9-7

TEL.028-661-2778 / 028-661-2779

FAX.028-689-2731

E-mail: info@u-machipia.org URL: <http://www.u-machipia.org>

開館時間 午前9時から午後9時30分まで

休館日 年末年始(12月29日～翌年1月3日)
臨時休館(施設点検等)

JR宇都宮駅東口から徒歩15分 駐車場28台

市民活動助成基金

ご協力ありがとうございます

- 宇都宮屋台横丁 (順不同・敬称略)
- 船津祥
- 宇都宮中央ライオンズクラブ

市民活動助成基金とは

ボランティアやNPOの活動を財政的に支援する「市民活動助成金」の財源で、企業や市民の皆様からの寄付で支えられています。

寄付を通して社会貢献活動に参加しませんか?

宇都宮市役所

みんなでまちづくり課 市民活動グループ

TEL.028-632-2287

URL: <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>

※トップページ▶(分野別で探す) 市民協働・コミュニティ▶ボランティア・NPO

鳥の目&虫の目 十まちぴあ通信

鳥のような広い目で宇都宮全体を見ながら、虫のようにミクロな目で、地域のまちづくり活動をお伝えします。

登録はE-mail／窓口にて! info@u-machipia.org

まちぴあ最新情報にアクセス!

<http://www.u-machipia.org>

まちぴあ